自動車運転場面における刺激欲求特性の二面性

○宮崎章夫¹・矢野伸裕²

(茨城大学人文学部¹・科学警察研究所²)

キーワード：刺激欲求特性，運転，二面性，年齢

A dual-nature model of sensation seeking in driving situation

Akio MIYAZAKI¹, Nobuhiro YANO²

(¹College of Humanities, Ibaraki Univ., ²National Research Institute of Police Science)

Key Words: sensation seeking, driving, dual-nature, age

目的

刺激欲求特性とは変化に富み、新奇で、複雑な、強い刺激・体験を追い求めるパーソナリティ特性である。この傾向が強い Sensation Seeker (SS) はスピード超過、頻繁な追越し、車間距離をつめた走行などのリスクテイキング行動を示しやすい。リスクテイキング行動はヒューマンエラー・事故の原因となることから、これまで SS は危険なドライバーという印象をもたれてきた。

それとは対照的に、SS には優れたドライバーとしての一面もあることが近年指摘されている。都市部の交通環境は強く新奇な刺激で満ちているが、これらの刺激に対して SS は高いストレス耐性をもつ。このことから、SS は運転中の精神的負担が少なく、効率的な情報処理をおこなうことができるとされている。この指摘を裏付ける知見として、新奇な交通状況において高齢の SS は効率的に危険源を発見できることや、高齢の SS は交通事故がむしろ少ないことが示されている (Miyazaki, et al, 2013; Schwebel, et al. 2007)。

以上のように、刺激欲求はヒューマンエラー・事故を増やす側面と、それらを減らす側面を兼ね備えていると考えられる。こうした二面性を解明することは、SS を深く理解することに加え、刺激欲求に関連した交通問題への対応法を考えるうえで重要である。本研究は SS の二面性を示すモデルを構成し、質問紙調査を通してモデルの妥当性を検証する。

方法

対象者 全国に居住する免許取得後 1 年以上の男女で、18-24 歳（青年群）、39-49 歳（中年群）、65 歳以上（高齢群）の計 312 名。各年齢群は男女同数とし、なおかつ、過去 3 年以内に事故経験のある者を半数ずつ含めた。

質問項目 フェイスシート 年齢 (1)，健康状態，他 **刺激欲求尺度抽象表現項目版** (古澤, 1989) 刺激欲求の強さを測定する尺度で、TAS, Dis, ES の下位尺度 (2, 3, 4) から成る。**動機別運転リスク行動尺度** (宮崎・矢野, 2014) スピード希求型と他車逃避型のリスクテイキング行動を測定する下位尺度

(5, 6) から成る。 **運転負担感受性チェックシート** (石橋・大桑・古郡・赤松, 2002)。運転負担の感じやすさを測定する尺度であり、交通状況把握と道路環境把握の負担感を測定する下位尺度 (7, 8) を使用。 **運轉行動尺度** (自動車安全運轉センター, 2000) ヒューマンエラーの犯しやすさ等を自己評価する尺度であり、情報の見落としと運轉操作ミス測定する下位尺度 (9, 10) を使用。

手続き 事故経験者の必要数を確保する為、リサーチ会社を介して web 調査を実施した。2014 年 4 月、某社の登録モニターから条件に合う 507 名を無作為抽出して調査を依頼し、312 名の回答を得た時点で調査を終了した。

モデル構成

上述した根拠に基づき 2 つの仮説を設定し、それを反映したモデルを構成した。

仮説 1 SS はリスクテイキング行動を示しやすく、この特徴はヒューマンエラーを増やす方向に働くであろう。

仮説 2 SS は運転負担感が少なく、この特徴はヒューマンエラーを減らす方向に働くであろう。

結果と考察

構造方程式モデリングを用いてパス係数の値を推定したところ、「刺激欲求特性」から「リスクテイキング」に対して正のパスがみられた。さらに「リスクテイキング」から「ヒューマンエラー」に対して正のパスがみられた。以上より仮説 1 が支持された。また「刺激欲求特性」から「運転負担感」に対して負のパスがみられた。さらに「運転負担感」から「ヒューマンエラー」に対して正のパスがみられた。以上より仮説 2 が支持された。上記のパス係数はすべて 1%水準で有意であり、SS は二面性を持つことが確認された。なお「年齢」から「刺激欲求特性」に対して有意な負のパスがみられ、加齢に伴い刺激欲求は弱まることが確認された。そこで高齢期では刺激欲求の弱さに起因する問題にも注目する必要がある。

引用文献

Miyazaki, et al. (2013). Sensation seeking, hazard perception, and driving attitude in older drivers. *Tohoku Psychologica Folia*, 71, 1-10.

Schwebel, et al. (2007). Individual difference factors in risky driving among older adults. *Journal of Safety Research*, 38, 501-509.

付記 本研究は科学研究費補助金 (基盤研究 C, 23500793) の助成を受けた。